

# 木造建築講演会のお知らせ

(「建築士の日」記念事業)

■ 開催日時 平成24年7月7日(土) 15:00~17:00

(受付開始 14:30~)

■ 会場 大分センチュリーホテル (地階1階:琥珀の間)

〒870-0021 大分市府内町1丁目4番28号

TEL: 097(536)2777

## ■ 演題

「ヨーロッパの木造建築 ~ 非戸建木造にみる集約と多様性 ~」

ヨーロッパでは、複合的機能を有した木造建築物が数多く建設されています。その多くは、不特定多数の住民が使用する公共建築物です。

わが国においても公共建築物の木造化が叫ばれる中、その方向性を考えるための興味ある内容です。奮ってご参加ください。

講師: あみのよしあき 網野禎昭氏 (法政大学教授)

講師紹介: 網野先生は早稲田大学を卒業後、民間企業での勤務を経て、長年

スイスのローザンヌ工科大学で教鞭をとられていました。

ヨーロッパの木質構造についても深い造詣をお持ちです。

建築構法が専門ですが、建築構造・建築材料にも精通されています。

最近では、CLT構造(集成材として板部材を壁・床に使用した構造)の開発にも取り組まれています。

■ 主催 (社)大分県建築士会

■ 共催 大分県木造建築研究会

■ 受講申込について

受講料:無料 (どなたでも受講できます。)

但し、資料の準備のため、事前に申し込んでください。

先着45名とさせていただきます。

※申し込み後、確認のためご連絡をさせていただくことがございますので、お申し込みの際にはお名前とご連絡先をお知らせください。

## 【申込先】

社団法人 大分県建築士会

〒870-0022 大分県大分市大手町2丁目2-7 田原ビル2階

TEL:097-532-6607 FAX:097-532-6635

E-mail: info@oita-shikai.or.jp

● CPD 認定単位: 2 単位 (CPD 認定の必要な方は申込して下さい)

● 申込方法・申込先

氏名、連絡先、会員・非会員の別を記載の上、(社)大分県建築士会 事務局へ FAX (097-532-6635) または、E-mailにてお申込みください。

受講申込書

「木造建築講演会」の受講を申し込みます。

氏名：( )  
勤務先：( ) 建築士会 支部・非会員  
連絡先： TEL ( )  
FAX ( ) CPD認定： 必要 ・ 不要  
(どちらか ○ をお願いします。)

受講申込書

「木造建築講演会」の受講を申し込みます。

氏名：( )  
勤務先：( ) 建築士会 支部・非会員  
連絡先： TEL ( )  
FAX ( ) CPD認定： 必要 ・ 不要  
(どちらか ○ をお願いします。)

受講申込書

「木造建築講演会」の受講を申し込みます。

氏名：( )  
勤務先：( ) 建築士会 支部・非会員  
連絡先： TEL ( )  
FAX ( ) CPD認定： 必要 ・ 不要  
(どちらか ○ をお願いします。)

## 「ヨーロッパの木造建築～非戸建木造にみる集約と多様性～」

### 多層階木造集合住宅で町おこし

ヨーロッパでは、近年、街中に大型の木造耐火建築の多層階集合住宅が多くなっています。オイルショック以後、エコロジーや省エネルギーで循環できる大量な自己資源の森林の木材を、コンクリートや鉄筋の代わりに、バイオマス燃料としての研究や実績が進んでおります。

現代の大型木造建築が進んでいる国はオーストリア、スイス、スウェーデンと考えますが、その中でオーストリアは日本の木材の輸入先の国別ではトップクラスで馴染みもあり、ウーン工科大学は木造建築の研究が盛んで、デザイン、構法、構造、法規、耐火、音響、生産、建築物理学など一体な研究・実戦・教育がなされています。

網野先生はそのウーン工科大学で研究・教育に携わり、私どもは世界の最新鋭、最先端の木造建築のお話を聞けます。



ウーン工科大ヴォルフガング・ヴィンター教授と  
網野先生 =2005年オーストリア・スイス研修



チューリッヒ郊外木造6階建集合建築  
=2010年オーストリア・スイス研修



インスブルック郊外木造3階建集合住宅  
=2010年オーストリア・スイス研修



インスブルック郊外木造3階建集合住宅  
=2010年オーストリア・スイス研修



ウーン木造4階建集合住宅 =2005年オーストリア・スイス研修時の建築家H・カフマン（ミュンヘン工科大学教授）のコンペベース、その後完成。ホームページから転載。

建築学科

デザイン工学研究科建築学専攻

建築構法研究室研究室

網野 禎昭 教授

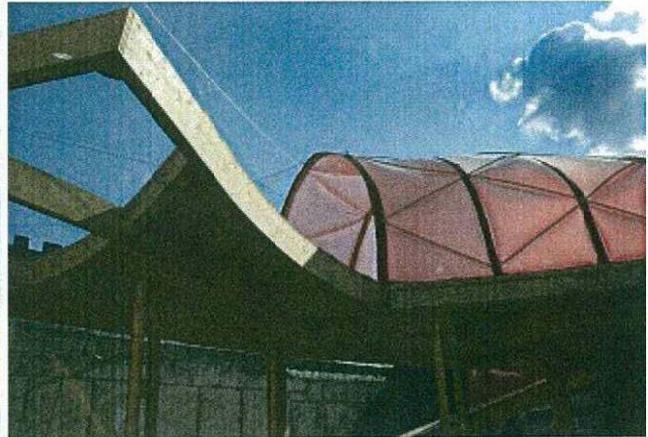
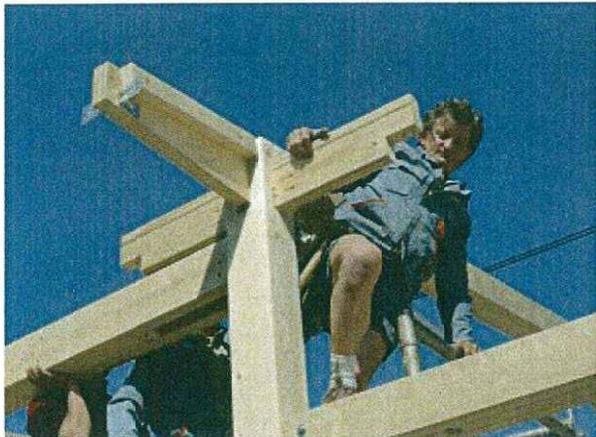
AMINO Yoshiaki



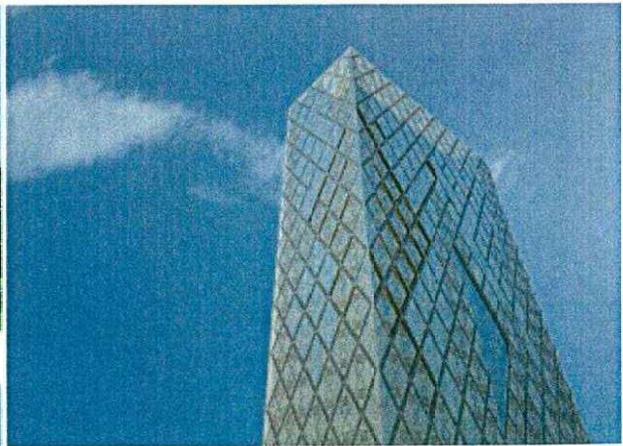
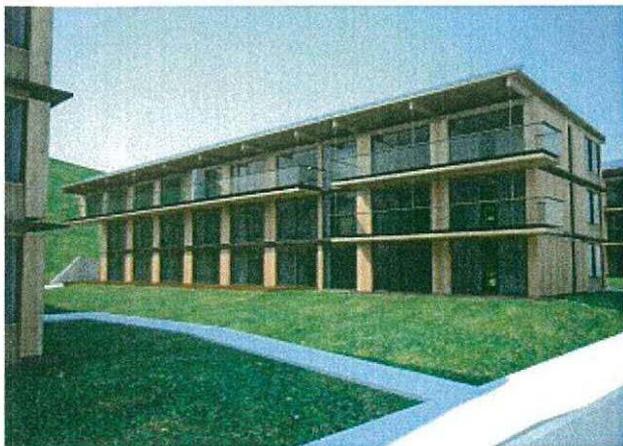
木造建築の多様化に挑戦する

古来から私たちは地球上の資源を建築材料という形に変質させて建物や町をつくっています。継続的に住みやすい建築環境をつくってゆくためには、建物のつくり方と自然のバランスが取れていることが重要です。このような視点で標準化・工業化という現代建築のつくり方を見たとき、使いやすい資源だけを選りすぐってはいないだろうか？廃棄できないほど素材を加工し過ぎてはいないだろうか？という疑問が生じます。自然素材は多様なものです。であれば建築のつくり方も多様であっていいはずですが。この研究室では、自然を建築に近づけるのではなく、建築が自然に近づくを理念に、自然素材の代表格である木材の創造的活用を考えていきます。

- 研究テーマ: 都市型木造建築の設計、木造建築の用途開発、生産余材・非木材の活用
- 社会的活動: 日本建築学会、ウィーン建築家協会設計競技専門員(2007)
- 業績: オーストリア・シュバイクホッフアー賞(2005年教育部門)



ヒューマンスケールな架構デザイン(右、ウィーン工科大生とセルフビルド)



都市スケールの木造建築(Driendl\_Schluderらと共同設計)

[RBA HOME](#) > [RBAタイムズHOME](#) > 2011年 >

## 「RC、S、木造の垣根を越えよう」

### 網野禎昭・法大教授 欧州の木造建築物を語る



網野教授(木造耐力壁ジャパンカップの会場となった日本建築専門学校で)

先日行なわれた「第14回木造耐力壁ジャパンカップ」は既報の通りとても面白い取材ができたのだが、主催したNPO法人・木の建築フォーラムはもう一つ大きなプレゼントを用意していた。審査委員の一人でもある法政大学デザイン工学部建築学科・網野禎昭教授の特別講義だった。関係者にとってはあるいはよく知られたことなのかもしれないが、記者のような素人には衝撃的で、とても新鮮な話で、日本の将来も捨てたもんじゃないという希望を与えてくれた講義だった。

網野氏は、自ら「私は日本で 木造建築を ほとんど勉強したことがない。学生のときにスイス、オーストリアに渡り、ユリウス・ナッテラー教授に師事してきた」と語り、ここ10年ぐらいの間に変わってきた欧州の木造建築について約30分にわたって熱弁をふるった。全てを紹介できないが、いくつかを紹介する。



一つは、それぞれの街がエネルギー効率を考えたコンパクトな街になっていることだ。人口がわずか3,000人の小さな町では、木造の公共建築には役場の機能のほかレストラン、本屋、幼稚園、貸しオフィスなどが併設されており、「ここに来れば1日の用が済む」(網野氏)ようになっている。また、住民が製材ゴミなどを捨てる場所が設けられており、その廃材を燃やすことで地域のエネルギーとして供給しているところもあるという。網野教授は「それらは決して大げさなものではない。当たり前のようにバイオマス資源として利用している」と述べた。

これに対して、わが国では技術者側から様々な提案は行なわれてはいるが、どういった建物がいいのか、ユーザー側から論議されていないと網野教授は指摘し、「日本の社会はこれから老いていく社会。経済も低迷している。このような構造を考えると、従来の拡大を前提とした木造振興を根本的に考え直さないといけない」と話した。

網野教授はまた、自らもかかわった地方の人口わずか3,000人の町で「15億円かけて建設したドームが地域の活性化にほとんど役立っておらず、廃墟と化している」反省を踏まえ、「公共建築物の木造化が図られているが、1,000㎡以上など大きなものにばかり焦点があたるのは疑問がある」と語った。網野教授は「本当の目的は何か。生活、コミュニティ、エネルギーなどの視点から考えないといけない」と力説した。



欧州では RC やSと木造を組み合わせたハイブリット構法が積極的に取り入れられているという網野教授の話にも興味をそそられた。ある5階建ての96室のリゾートホテルでは2階までがRCで、3～5階が木造だという。しかも、街の工務店がユニットを自分たちの工場で作って、現場で組み立てていくのだという。床が木造で柱がRCや鉄骨という建物はたくさんあるという。網野教授は「これらは決してハイテクだよりの建物ではない。普通の大工 技術の延長でも非戸建木造ができる ということだ。また、RCだとかSだとか木造などといったカテゴリを考え直さないといけない」と話した。



網野教授が語ったように、わが国は「田舎が成立しなくなった。都市もたくさん問題を抱えている」。都市と農村の対立構造は高度成長期に激化し、ついに農村は破壊された。同じような現象は欧州だろうが北米だろうが世界中で起きているのだが、網野教授によると、「過疎の村でも環境づくりに成功し、そこに住みやすさを求めて都市から引っ越して来る人も多い」という。

[耐力壁ジャパンカップ ポラスが4年ぶり6度目優勝\(10/11\)](#)

(牧田 司 記者 2011年10月19日)